

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こぼんはうさくら辻堂教室
------	--------------

公表日 2026年3月20日

利用児童数

23

回収数

18

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	2		2		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12	2		4		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	2		2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14	2		2		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12	4		2		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16			2		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12	4		2		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12	4		2		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12	4		2		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	2		2		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	4		10		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16			2		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16			2		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	4	6	6		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	10	6		2		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	4	10		4		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	2		2		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	6		2		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8	6	4		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14	2	2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14		4		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14	2	2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	6	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	4	2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	2	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12	2	4		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16		2		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16	2			
	29	事業所の支援に満足していますか。	14	4		不満はないが分からないことが多い	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こぼんはうすさくら辻堂教室			公表日	2026年 3月 20日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		相談（面談）室も、5.2mあり、十分なスペースを確保している。生徒様が落ち着くスペースがあるところが良い。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		配置基準を満たしたうえで、必要に応じて、担当を決めて生徒様を支援している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		活動内容や生活支援に必要な絵カードなど、目で見えてわかる内容となっている。建物はバリアフリーに整備されており、情報を視覚化してお伝えするよう努めている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		消毒・換気も含めて、清掃チェックリストに基づいて実施されている。	小集団プログラムでは、大きな音が苦手な生徒様の配慮が必要な時もある。プログラム内容と個別プログラムを併せて検討していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		宿題や個別課題への取り組み、体を動かすレクリエーションなど、必要に応じて生徒様が選択できる環境になっている。	引き続き、個別の活動スペースを柔軟に確保し、感覚過敏の生徒様が安心できる環境を整備していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		毎日のミーティングに加えて、業務内容や支援内容の共有の為にQCサークル活用しながら目標設定、振り返りの確認をし、業務改善に取り組んでいる。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			保護者評価表の結果を定期的に分析し、保護者の意向をより反映させる。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎月の職員会議で議題を出し、療育やその他の業務の改善に向けた話し合いの場を設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	1	第三者評価は行っていない。	今後必要性を検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		虐待防止、身体拘束、BCP（感染症、非常災害）、継続研修（年6回以上）採用時研修、段階別研修、その他の勉強会が定期的にある。	
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		プログラムの公表をHPにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		アセスメントシートを使用し、生徒様の状態像や特性を把握するように努め、生徒様、保護者様のニーズや課題に沿った計画を作成している。	適宜開催のカンファレンス、スタッフ会議で詳細を検討して職員間で共有していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		生徒様にとって必要な支援を個別活動と集団活動を組み合わせ提供できるように考慮して作成している。	適宜開催のカンファレンス、スタッフ会議で詳細を検討して職員間で共有していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		必要に応じて職員間で話し合いを行っている。	必要に応じて職員間で話し合い、共有事項の計画案を更新して支援につなげていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		事業所にて統一されたアセスメントツールを使用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		「5領域」について勉強会を開催したうえで、生徒様の支援内容に盛り込んで計画を作成している。	その他の家族支援、移行支援は保護者の意向や年齢などに合わせて設定している。今後は訪問できる事業を増やす検討をしていく。

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		ミーティングや職員間でのコミュニケーションを通じて活発にアイデアを出し合っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		個別の目標に対して、スモールステップにより定着を目指している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		プログラムは固定化しないで小さな変化に目を向けて、内容を改善するように努めている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		毎朝、必ずスタッフミーティングを実施している。活動内容や支援目標を確認（QCサークル、PDCAサイクル）し、安全に遂行できるよう見通しを立てて実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		日々気づいた点を職員同士で話し合い、振り返りを行い、次の支援に活かしている。	必要に応じて検討していけるようにしていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		記録は毎回詳細に取っており、職員間で共有している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4			モニタリング結果を個別支援計画の具体的な目標や活動プログラムに反映し、定期的な見直しサイクルをより確実に運用する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	4		課外活動、余暇活動、調理実習などの機会を設け、作業課題の充実を図っている。	今後、地域交流に関しても検討していきたい。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		お買い物訓練やごっこ遊びなど、生活の場面場面で決定や選択する機会を設けることで自己決定を促している。	選択肢を増やす、ルールとセットで学べるような工夫を検討していく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		管理者又は児童発達支援管理責任者が参加している。事前に職員間で情報共有を行い資料を準備している。	会議開催後の詳細な報・連・相を徹底していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		学校や事業所、障害福祉課など連携できるように現在取り組んでいる。	医療機関との連携は地域課題として考えられる。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	1	学校の年間行事、計画は各学校のホームページで確認している。下校時間については、学校と情報共有をしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1	担当者会議の参加の依頼があった（関係機関）際は対応している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	1	情報共有の依頼があった際は対応している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	1	児童発達支援センターとの連携は対象者の年齢もあるせいが行われていない。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	1		保護者からの要望があれば検討したい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	1	参加依頼があれば可能である。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		リトムノートや送迎時、必要時は電話連絡をしてお伝えしている。面談でもお話をさせていただいている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1		ご家庭によっては保護者様が希望していないがした方がいいと判断した場合は連絡などを多くとるなどしている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		契約における面談などで意向についてお話を聞くようにしサービス等利用計画を基に作成している。	相談が聞かれた際には、その都度対応していく。

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		計画を説明しながら同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		相談が聞かれた際には、その都度対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	3	1	現在保護者の方同士、きょうだい同士でのコミュニティをごちらが用意することは行っていない。	保護者、ご家族参加型のレクリエーション（親子ウォークラリー、運動会、お茶会等）などの機会を作り保護者同士の連携を支援する機会を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		ご意見をいただいた際は、職員間で共有し、迅速に対応するように心がけている。	しっかりと記録に残し、再発防止に努めている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		さくらだよりを毎月発刊し、活動概要や行事予定などをお知らせしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		職員向けの研修を実施したり、マニュアルを敵的に見直しして、個人情報は必ず同意を取り、取り扱いは十分に注意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		地域の方を招待して行事を行うことは実施できていない。	お祭りやイベント、法人での行事、地域の消防署と連携して行っている防災訓練などの行事に地域の方を招待していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		マニュアルの内容を定期的に見直し、実際の訓練で想定外の課題が出た場合に、迅速に改善できる仕組みを強化している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		防災訓練やその他の訓練の結果を振り返り、想定外の課題や改善点をBCPに反映。より実践的で柔軟な対応ができる体制を強化している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		保護者面談時に確認、周知している。	必要に応じて聞き取りを行って事前把握に努めていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		医師の指示内容の更新情報を保護者経由で更新し、職員全員が対応手順や緊急時の処置を確実に理解できるようにしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		安全計画の研修、地震・火災を想定した避難訓練を定期的実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		さくらだよりにて、取り組み内容や訓練の様子を周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		毎日のミーティングで、ヒヤリハットと事例について話し合い、検討・再発防止に向けた取り組みを行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会が主体となって研修を行い、全職員に周知徹底している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		前例がない。	放課後等デイサービス計画に身体拘束することが予想される場合記載することとしている。	